

みえ高校生県議会 質問と答弁の概要 (令和6年8月21日)

学校名 質問項目	質問の概要	答弁の概要	答弁者
<p>津西高等学校</p> <p>『三重県内のバスにおける2024年問題がおよぼす影響について』</p>	<p>現在、多くの路線バス会社では、運転手のなり手の減少や高齢化、労働時間の規制により深刻な人手不足が発生し、これに伴い多くの路線でバスの本数が大幅に減少した。このまま人手不足が続けば運行が困難になることは明らかだが、地方では自家用車を持たない高齢者や通勤通学での利用者もおり、路線廃止は利用者の生活への影響が懸念されるため、バス会社は赤字でも運行を維持しなければならない。早期に人手不足を解消し、路線バスの運行を維持することが求められている。</p> <p>私たちは、人手不足によるサービスの低下により、利用者が減少し、収入も減少、赤字路線の増加や人件費確保の難しさとといった県内路線バスの現状の負のスパイラルを、Worker、Service、User、Moneyの頭文字を取って「WSUMサイクル」と名付けた。このサイクルのスタートには、人手不足があると考える。しかし、現在の県の補助金では、赤字路線に対する補填のみが行われており、人手不足は解決していない。そこで、<u>人手不足を解決するための補助金を出すことを提案する。</u>これにより、バス事業者が賃金を上げるなど労働環境の改善を行うことで、運転手のなり手の増加、より良いサービスの提供、利用者の増加といったよいサイクルにつなげることができる。この提案について、どのように考えるか。</p>	<p>県では昨年度に「三重県地域公共交通計画」を策定し、路線バスを含めた地域公共交通を将来にわたり維持していきけるよう、支援を進めている。</p> <p>運転士不足の対策では、バスの運転資格である二種免許の取得費用や求人イベントの開催等、担い手確保を進めるバス事業者へ支援を実施している。こうした運転士確保の取組を進めながら、バスやタクシーで対応が困難な地域での新たな移動手段の確保として、ライドシェアサービスや自動運転の導入に向けた対応の検討も進めている。</p> <p>路線バスの維持・確保には、運転士不足のほか、人口減少による利用者の減少といったさまざまな課題があり一筋縄ではいかない問題だが、提案いただいた好循環の形に少しでも近づけるよう、運転士不足の解消に向け、バス事業者への支援に引き続き取り組むとともに、バス会社で働く方の処遇改善やイメージアップに向けた取組やPRなど、バス事業者と連携して取組を進めていくことが重要だと考えている。三重県で安心して暮らし続けてもらうためにも、利便性の高い地域公共交通の有無は非常に大きなポイントになることから、議会としてもその重要性を改めて認識し、これまで以上に議論を深めていきたい。</p>	<p>総務地域連携交通常任委員長</p>

学校名 質問項目	質問の概要	答弁の概要	答弁者
津高等学校 『三重県の過疎化に対する取り組みについて』	<p>県における過疎化について、本校生徒にアンケートを実施したところ「三重県は過疎化が進んでいると思うか」に対して約 91%の人が「はい」と答えた一方で、約 97%の人が県の政策が載るホームページ（以下「HP」）や広報を見ない、約 94%の人が県の過疎化に対する取組を知らないとの結果となり、県の政策は若い世代を中心に浸透していない。その原因として、県HPで政策の取組ページを見つけるのに時間がかかることがある。<u>掲載する要綱等に具体性を持たせたり、知りたい情報にすぐにたどりつけたり、学生向けHPへ切り替わるような仕組みを作ってはどうか。</u></p> <p>本校アンケート「将来三重県に残ろうと思うか」の問いでは、約 70%が、進学・就職ともに県外を考えているという結果となった。三重にはたくさんの魅力があるにも関わらず、若い世代に魅力が伝わっていない。そこで、<u>県南部地域で休廃校となった施設等を利用して、臨海学校という形で小中高生向けに三重の良いところを「感じる・学ぶ・発掘する」取組を行ってはどうか。</u>三重の素晴らしい自然や場所を知って感じてもらうことで、三重への愛着や関心を高め、ゆくゆくは過疎化の進んだ地域を元気にしていけるのではないかと<u>思う。これらの提案も踏まえ、県の政策が若い世代に浸透していないこと、また、活性化のための取組についての考えをお聞きしたい。</u></p>	<p>アンケート結果について、重く受け止める。</p> <p>県では、県内の過疎地域が持続的に発展していけるよう「三重県過疎地域持続的発展方針」を策定し、過疎地域で取り組むべき施策の方向性をまとめている。</p> <p>具体的には、市町と連携して移住の促進や地域おこし協力隊の受入促進の取組を進めており、昨年度の県外からの移住者数は 757 人と過去最高となったほか、地域おこし協力隊の受入も平成 28 年度の 6 市町 45 人から令和 5 年度には 18 市町 80 人まで広がり、取組の成果も徐々に表れてきている。</p> <p>また、県南部地域の魅力を感じてもらい過疎地域の活性化が進むよう、大学生等を対象に仕事と暮らしの体験ツアーや、地域住民との交流を深め、地域課題解決のためのフィールドワークを実施している。</p> <p>過疎地域の持続的な発展に向け、若い方を中心に三重に興味・関心を持ってもらい三重を選んでもらえるよう、情報発信や取組をより積極的に進める必要がある。ご意見を踏まえ、HPとともにSNS等も取り入れ分かりやすく情報発信できないか、議会としても県に働きかけたい。また、県南部地域での体験型の取組は魅力的な提案のため委員会で情報共有し今後の活動の参考としたい。</p>	総務 地域連携 交通 通常 任 委員 長

<p>みえ夢学園 高等学校</p> <p>『公共交通機関の不便さについて』</p>	<p>公共交通機関を利用して通学する生徒は、電車やバスの本数が少なく困っている。JRは遅延も多い。車を持たない高齢者も不便さを感じているのではないかと。</p> <p><u>県の課題として、公共交通の担い手の確保とある。運転士の確保の取組として、自動運転やAIデマンドなど交通DXを促進していると思うが、具体的な進捗は。また、今後、県の取組をどのように県民に周知していくのか。</u></p> <p><u>電車やバスの本数を増やすため、利用者を増やす取組として、普段の利用者向けに乗車回数に応じたプレミアム商品券との交換や、本年4月から近畿日本鉄道と東武鉄道で実施した観光客向けにゲーム感覚で観光地などを周ることができるような企画を提案するがいかがか。</u></p> <p>普段使い慣れていない駅やバス停の案内表示に困ることがある。路線が多く集まる駅やバス停で困っている高齢者や外国人を見かけることがある。</p> <p><u>高齢者や外国人、普段あまり使用しない人のために、乗り場が多い駅やバス停に分かりやすい案内板などの設置予定はあるか。イオンモールにあるような備え付けの大型タブレットで外国語にも対応できるものを作ってはどうか。</u></p>	<p>皆さんの公共交通への関心の高さを認識した。通学での利用や移動手段を持たない多くの高齢者など地域の実情に応じた移動手段の確保の取組が必要である。</p> <p>昨年度は、住民の需要にあわせて乗合運送を行うデマンド型交通の実証事業などに取り組む5市町に財政的な支援を行った。また、国・県・市町が一緒になり、市町が抱える地域公共交通の課題を共有し、解決に向けた方策の検討を進める場を設けている。今年度はライドシェアサービスの実証事業を行う志摩市に対して財政支援を行っている。</p> <p>県民への周知については、実証事業の主体が市町であることから、県として十分に周知できていたかを振り返り、県のHPなどを通じて積極的にPRするよう、議会からも働きかけを行う。議会の中でも地域公共交通の取組を取り上げることで県民に広く伝えていく。</p> <p>乗り場の多い駅やバス停は、乗継拠点となることが多く、利用環境の充実を求める声を多くいただく。</p> <p>県では、外国人などにも利用しやすい公共交通機関となるよう、多言語の案内表示の導入などに取り組む交通事業者を支援している。引き続き交通事業者と連携しながら分かりやすい案内表示が進むよう、議会として働きかける。</p> <p>いただいた企画や提案も参考にし、地域公共交通機関の利便性向上に向けしっかりと調査・議論を進めていきたい。</p>	<p>総務地域連携交通常任委員長</p>
---	--	--	----------------------